

令和6年度 学校評価表(計画・中間 **最終**)  
【4月末・10月 **2月**】

学校名(熊野町立熊野中学校)

a 学校教育目標	「前向き (Be positive.)」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	心豊かで確かな学力を備えた教育の推進 地域に開かれ、地域の期待に応え、地域から信頼される学校の創造 地域を愛し、地域から愛され、地域に生きる子どもの育成
-------------	----------------------	-------------------------	--

評価計画(4月末提出)					自己評価					学校関係者評価			n改善方策		
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	h 達成値	i h/g 達成度	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	10月	2月
					10月	2月	イ 適正			ロ 不適正	ハ 分からない				
自己認識、自分の進路選択、表現ができる	【知】 自己表現できる生徒の育成 ～学力の定着と自らを語る生徒～	○確かな学力の定着	○実力テスト、町学力調査の結果、各教科全国平均比105%	全国平均比 105%	全国平均比	全国平均比	1年	A	【標準学力調査の結果】 校内正答率の平均と全国正答率の平均の比 ①106% ②114% ③101% 標準スコア(50が基準)の経年比較 1年:51.6 2年:52.0→53.0 3年:50.0→49.5→51.1 改善方策(10月)を実施した結果、1、2年生は全国平均比について、それぞれ10ポイント上昇するなど、大きな成果があった。一方、3年生の数学に課題が残った。個々の生徒に対する指導や既習内容の復習等早めの対応を行う。	9			・国語の結果がよい。書くことが得意なのでそれを生かす。また、2学年の数学に著しい伸びをみせている。帯タイムでの取組が、積み上げ型の教科で功を奏したのではないかと、数字に表れる学力ばかりにとらわれることのないようにしてほしい。 ・課題だけでなく、よかった点も分析して次に生かす。	・朝や帰りの時間に設定している帯タイムの学習等の時間を各教科・各学年の実態に応じて充実させる。 ・低学力の生徒に力が付くよう、再チャレンジや放課後学習を行う。 ・各種テストの結果から、課題を明らかにし、各教科で対策を継続する。	・帯タイムの学習について、効果的に教科や内容を選択する。特に内容については、授業の中での学習の振り返りになるよう検討する。 ・町学力調査におけるアセスを活用し、教員・生徒がそれぞれ個々の状況を把握し、指導や学習の改善に生かす。
					1年	1年	1年								
2年	2年	2年													
	○表現力の育成 ・自信をもって自分について語れる、自分の考えを語ることができる。	・様々な場面で生徒が表現できる場を設定する。 ・教員からの評価だけでなく生徒同士の相互評価を推進し、相手意識をもたせる。 ・校内研修を充実させ、教員の意識や指導力の向上を図る。	○生徒の自己評価 ○教員による生徒の表現力の見取り、生徒の自己評価を基にした、教員の評価	80%	生徒	生徒	生徒	A	【生徒の表現力に係る意識調査】 ・「自分で考えたことを、相手にわかりやすく伝えていく」という項目での肯定評価が79.2%(6月)→76.5%(10月)→79.4%(1月)と変化した。 【教員による生徒の表現力の見取りの意識調査】 76.2%(1学期)→74.8%(2学期)と変化した。 ・年間を通して全教職員で研究授業を参観・協議したり、来年度に向けた協議を行ったりする中で、教職員の意識は高まっている。 ・取組を行う中で、相手の意見と自分の意見を比較しながら対話する姿や相手に伝わりやすい表現の仕方を考える姿などが見られるようになった。また、組曲が生徒主体のものとなり、昨年度より生徒一人一人の表現力の向上が見られた。そのため、生徒の表現力は明らかに向上していると考えられる。このように、生徒一人一人の具体的な姿を見取りながら実態把握に努め、次年度も取組を継続する。	9			・教科指導において、教職員の「問いの質」が高められたことが、表現力の向上につながっているのではないかと、数字に表れる学力ばかりにとらわれることのないように指導する。 ・3年生の入試に向け、模擬面接等の表現の場を設定し、自分についてしっかり語り上げることができるよう指導する。 ・広島県の伴走型支援を活用しながら、教員の共通認識や意識の向上を図る。	・引き続き、様々な教育活動で生徒が表現する場を設定し、表現力を育成していく。 ・研究部を中心に校内研修を充実させ、教員の意識や指導力の向上を図る。	
					77%	79.4%	99%								
教員	教員	教員													
豊かな心	【徳】 ①豊かな心 ◆PPG・レベル5のあいさつ ◆無言移動、無言清掃、靴揃え	○授業開始・終了のあいさつがしっかりできる。	○生徒及び教員のアンケートを基に評価	85%	89%	ア	105%	A	【ア:あいさつ】 授業の開始と終了のあいさつについては年度始めから意識させて取り組ませることができたが、学校生活や地域生活の中でも自然とあいさつができるよう意識を理解させていきたい。 【イ:無言移動】 意識を全校で共有し目的意識をもって取り組むことができた。全校集会では朝8時15分の集合完了が全クラスできていた。 【ウ:無言清掃】 健康美化委員会の取組もあり、全体として意識は高まっており、生徒の動きも良くなった。 【エ:靴揃え】 約80%の生徒については靴や鞆等の整理整頓ができており、引き続き指導が必要である。 【その他】 1学期は「礼」、2学期は「美」、3学期は「時」とテーマを生徒に意識付けさせることで、委員会とも連携して学校全体で取り組むことができていた。	9			・それぞれの行動の意義や意味がストンと腑に落ちた状態で実践できるよう、生徒の意識を高めることができればよい。 ・色々な評価が必要。認められることが、「学校が楽しい」ということにもつながる。 ・先生と生徒の信頼関係が感じられる。	・あいさつの意義を再確認しながら、教職員間で共通認識をもち、あいさつをやらせ切るように継続的な指導を行う。 ・無言清掃にも力を入れて取り組み、委員会の取組とも絡めながら、指導を行っていく。	・様々な取組の意義を理解させ、生徒が自主的・自発的に学校生活を送ることができるようにしていく。 ・生徒に対し、適切に評価をしていき、自己肯定感が育まれるように指導する。
					82%	81%	92%								
イ	ウ	エ													

自己評価 A~D 4段階評価

A: 100 ≤ (目標達成)  
B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100

C: 60 ≤ (もう少し) < 80  
D: (できていない) < 60